

3 ほ乳類モニタリング調査

(1) ホンドテンモニタリング調査

①ホンドテンについて

生物多様性の復元をほ乳類の視点から評価するために、中型ほ乳類のホンドテン（以下、「テン」とします。）に着目し、林道等にテンが排出した糞をサンプルとして回収し、内容物等の分析を行っています。

テンは、大型猛禽類のように生態系の頂点に立つ種ではありませんが、①行動圏が数～数十haで林小班単位の環境変化と密接な関わりがあること、②河川、山地など平面的な広がりのほか、樹上という3次元の活動範囲を持つこと、③食性が植物から動物まで非常に幅広いこと、④全国の広い地域に分布しているため他地域との比較ができること等から、森林環境の状況把握する有力な指標として活用しています。

②主な取組

この調査は、サポーターが中心となってサンプルの回収・調査を行っています。

今年度は、赤谷、小出俣、ムタコ、雨見の各林道といきもの村で赤谷の日を中心に毎月サンプルの回収・調査を行いました。赤谷の日で間に合わなかった場所については、ボランティア及び赤谷センターで補完調査を行いました。

赤谷センターでは、10月18日、11月16日、12月8日に補完調査を行いました。



サポーターによるテン糞のサンプリング

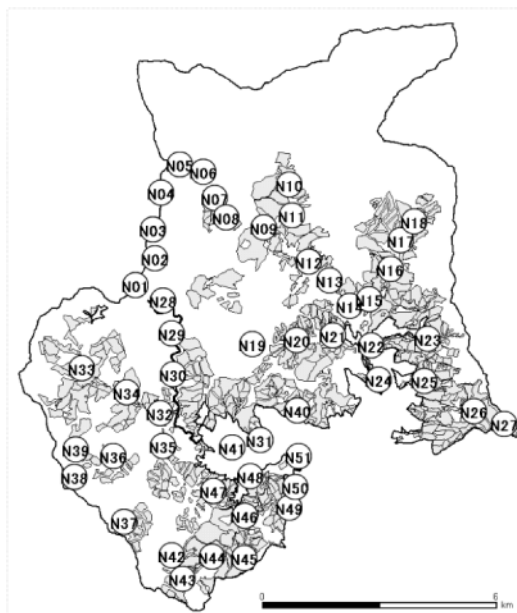


センサーカメラに撮影されたホンドテン

(2) センサーカメラを用いた動物相調査

平成20年度から、赤谷プロジェクトエリア全域の動物相、動物の生育環境、エリア内の分布状況及びそれらの経年変化を把握するため、自然保護協会が中心となって51カ所の固定点にセンサーカメラを設置しています。

固定点では、毎年一定期間、センサーカメラによる調査を実施しており平成23年度の調査は、8月23日～10月14日及び10月14日～11月24日の2回実施し、赤谷センターもセンサーカメラの設置、回収に協力しました。



センサーカメラに写ったツキノワグマ

センサーカメラ設置点

また、赤谷センターでもいきもの村内にセンサーカメラを2カ所設置しており、ニホンカモシカやノウサギ等が撮影されました。



いきもの村で撮影されたニホンカモシカ（左）とノウサギ（右）

(3) ワーキング・グループの開催

ほ乳類モニタリングの状況・成果等について検討するため、今年度は2回の会議を開催しました。

会議では、第1期(平成16年～22年)の成果とまとめ、及び今後の目標設定について意見交換が行われました。

また、将来生態系の攪乱が懸念されるシカ、アライグマ等について対策の検討が行われました。



WGの会議風景

(4) 来年度に向けて

今後も、サポーターを始めとする関係者と連携しつつ、テンのモニタリング調査やセンサーカメラを用いた調査等を通じて、野生動物の生息環境としての望ましい森林の姿を把握していくこととしています。

また、みなかみ町において課題の一つとなっている獣害対策については、県や町と連携し、まずは対話を始め、赤谷プロジェクトとしてどのような取組を進めていくか検討することとしています。